

岳連
ニュース

宝永

URL: <http://www.shizuokam.com>

静岡県山岳連盟
〒420-8076
静岡市駿河区八幡3-1-17
TEL (FAX) 054-288-7512
編集発行/総務委員会
平成27年11月24日発行
第15号

国体成年女子2種目入賞

皇后杯6位リード3位ボルダ5位

総監督総評

第70回国体は「紀の国わかやま国体」と称し、「全国に和歌山県の魅力を強くアピール」、「県民一人一人がスポーツをする・見る・支える（育てる）機会を享受」、「スポーツの価値、楽しさ、感動の共有」をもたらす大会として実施された。

山岳競技は、みなべ町で10月3～5日開催され、本県からは、成年男子と東海大会で勝ち抜いた成年女子の2チームが参加した。結果は、成年女子は大健闘しリード競技で3位、ボルダリング競技で5位に入賞した。成年男子は、実力を発揮できず悔しい思いをした。昨年も入賞したが、今年も上位入賞ができた成年女子と成年男子チームの健闘を大いに讃えたい。

（滝田博之）

成女監督講評
成年女子は渡辺亜梨沙、望月香菜子と国体初出場

成女リード競技



二日目のリードの予選は、望月が最終ホールドの3手前で、渡辺がさらにその3手前でフオールした。望月が下部でハンガーを踏んだ疑いがあるとしてビデオ判定に持ち込まれ、リザルトが出るまで不安な時間を過ごした。結局その疑いは晴れ、チーム成績4位で予選を無事にクリアした。続いて、午後に行われたボルダリングの決勝は、観客

への見栄えを狙った難解な課題であった。1課題目はトウフックからデッドで取りに行くところが遠く、結局二人ともB1が取れず、2課題目は、望月が最後の一手を取れず完登ゼロ。後半では望月が4課題目を完登したが、3課題目はゴール取りに失敗。チーム順位は5位であった。あと一課題登れば順位が一つ上がっただけに、少し悔しい思いが残った。しかし、大会前の予想ではボルダリングは各県のレベルが高く苦戦は免れないと思われていたので、大健闘の結果である。

最終日は午後からリードの決勝が行われた。緩傾斜でバランスシな前半部分に対して、後半は急傾斜となり、前半でいかに体力をロスしないかがポイントになるルートであった。二人とも前半部分は上手く切り抜けたが、上部に入ってまず渡辺が、続いて望月が遠いホールドを取り切れずにフオー

成男監督講評

3日(土)ボルダ予選

本年のボルダリング課題は例年より厳しい設定であった。結果的には、

渡辺、望月のコンビは今年で三年目。昨年まで東海ブロック大会で苦杯をなめ続けてきたが、この一年で二人とも本場に強くなり、晴れて本国体に出場しリード3位、ボルダリング5位、皇后杯6位という好成績を残せた。今回は幸運もあったように思うが、まだまだ伸び盛りの二人であり、来年以降も期待ができる。今後も県岳連全体で応援していきたいものである。

（難波利行）

成男監督講評

3日(土)ボルダ予選本年のボルダリング課題は例年より厳しい設定であった。結果的には、

大橋が第2と第3課題で惜しいポイントまで迫ったが、完登は出さず、36位の出だしとなった。全国的なジムラッシュの中で、ボルダレベルが大きく上がっていることを感じた。

4日(日)リード予選壁面は例年よりパターンのある形状の壁で、下部9mが固定壁、上部6mが可動壁となっている。予選ルートは、レストポイントに乏しい体幹を使わせるルートで、的確な足使いとムーブの選択を要求するルートである。伊藤は、下部の部分をこなして上部壁に入ったが、オブザベーションより悪いホールドもあり11mのポイントから次のホールドを取りにいつてフオー、大橋も下部を粘りながらこなしたが、伊藤と同じポイントの保持でフオーした。総合27位。

本年度の印象としては、年々リードも持久的なものにボルダリング能力を要求されるものとなっており、リードもボルダリングの両立が必要であることを強く感じさせられた。

（諸戸明）

9月常任理事会

9月7日(月) 18時30分から静岡労政会館5階会議室で常任理事会が開催された。

出席者は滝田博之、木ノ内高嘉、前川朝夫、出利葉義次、豊田稔、堀内修、松永義夫、大石一博、小田直美、鈴木修(文責)、田中保広、坂田昇 計12名

会長挨拶

①登山教室も無事終わりました。関係の方はご苦労さまでした。これからレスキュー講習会や雪山講習会等の行事がありますがご協力お願いします。

②個人会員は8名入会した。登山教室からは3名の入会があった。募集は引き続き行いたい。また、会員とのコミュニケーションの取り方等も今後は検討したい。

③「山の日」の行事について、4団体で協議した。

④ネパール大地震の募金13団体で18万5千768円集まった。20万にして寄付する。

⑤27年度の総会は4月中に行いたい。それに伴い、

常任理事会を1月・3月に開催する。

1報告事項

①指導委員会

- ・夏山登山教室 7月25日、26日、蝶が岳、常念岳の縦走を実施した。申込者17名の内3名がキャンセルとなり14名の参加者だった。人数としては丁度良く天候にも恵まれて良い夏山だった。車のアクシデントがあった。今後は、この点は検討したほうが良い。
- ・少年少女登山教室は8月7日、8日、親子富士登山を富士宮口で実施した。7家族16名の参加で全員無事下山した。

②国体委員会

- ・国体東海ブロック大会が7月18、19日に三重県鈴鹿市のクライミング競技場でリード、津市のKOWALLでボルダが実施された。成年女子は1位で国体(和歌山)に出場権獲得。少年男子は3位、少年女子は2位。
- ③海外委員会
- ・9月27日、10月3日、アメリカ・ヨセミテのクライマーズ・ミーティングに2名派遣する。

④総務委員会

- ・「宝永14号」は9月7日に発行された
- ・「宝永15号」は和歌山国体、スポーツフェスティバル、秋山登山教室等の記事を掲載して11月24日に発行予定。
- 2協議事項
- ①指導委員会
- ・秋山登山教室は10月17日、18日、金峰山に7名参加予定。9月30日に座学。
- ②国体委員会
- ・10月3～5日、和歌山県いなべ町で全国大会が行われる。成年男子、成年女子が出場する。
- ・11月3日、高校クライミング競技大会、浜松スクエアクライミングセンターで開催予定。
- ⑤スポーツフェスティバル登山大会
- ・集合場所の正式名称は「長島地区グランドゴルフ場」に統一した。
- ・Aコースは下見の結果を考慮して、出発を5時30分に早める。
- ・Bコースの閉会式は、14時45分から個別に行う等の細かい変更が報告された。
- ・各市町村に広報を依頼済み。静岡新聞には9月

第16回 静岡県高等学校クライミング競技会結果

	少年男子		少年女子	
	氏名	学校名	氏名	学校名
1位	原 賢伸	浜松日体	勝本真衣	富士宮西
2位	河合康太	浜松日体	鈴木彩有希	浜松日体
3位	坪井孝樹	富士宮西	深澤璃衣	富士
4位	池田直人	浜松城北	福島芽衣	富士宮西
5位	松島和由	浜松日体	南波千夏	富士宮西
6位	町田雅樹	浜松西		

6日の朝刊に掲載された。

⑥自然保護委員総会

- ・9月12日、13日、福島県の国立磐梯青少年交流の家・磐梯山周辺で開催。豊田委員長が出席
- ⑦「山の日・8月11日」の記念行事について
- ・県岳連、市岳連、日本山岳会、労山の4団体からなる実行委員会を組織し検討することになった。9月30日に第1回の委員会があり、滝田会長、塩沢副会長、木ノ内理事長が出席予定
- ⑧岳連カレンダー
- ・価格は一部1500円。300部作成した。申し込み期限は、10月31日まで
- ⑨レスキュー講習会
- 11月7日・初級、11月24日・中級を興津生涯学習交流館で開催予定
- ⑩竜爪登山大会は12月13日に開催予定。

（鈴木修）

編集後記

今回の宝永15号は掲載記事が豊富で内容も多く通常の4ページでは収まらず、急遽2ページ増やした。喜ばしいことだ。広報内容がたくさんあることは、岳連の活動が活発に行われている証拠でもある。専門委員会の皆さんは事業計画・実行に大変ご苦労されていることと思うが、それが岳連の活性化に寄与しているし、現に、目に見える形でその成果が現れているのだ。

こうした活動を継続維持し、組織の安定的運営を図っていくには、次世代の人材育成が必要である。

中高年者が多い岳連内に、岳連事業に興味を持ち共感する若い人をいかに取り込むか、難しい課題を背負っている現状がある。

国体で成女が大活躍をした。2種目入賞で皇后杯6位は実に素晴らしい成績だ。得点40点は40競技中9番目と県体協でも目立つ存在だ。来年も大いに期待したい。

(TK)

中・高・安・全・登・山・指・導・者・講・習・会

東京高尾の森わくわくビレッジ

平成27年度の中・高・安・全・登・山・指・導・者・講・習・会「東部地区」が9月11日から13日の間、高尾山周辺及び東京都高尾の森わくわくビレッジで開催された。国立登山研修所、日本山岳協会が主催し、中高年の体力等に応じた登山の知識や技能について学び、中高年登山指導者の養成を目的に行われている。中高年登山の課題、気象、医学などの講義、地図読みとナビゲーションの実技、山頂での観天望気の実習などを実施した。岳連からは中遠登山クラブの新村幸雄さんが参加した。

前日の鬼怒川洪水をもたらし、大雨の影響が心配されたが、高尾の森は晴天であった。講習会場・宿舎は以前の高校で、会議室は教室、宿舎は寮を再利用している。この会場に東日本各地より50名を超す方々が集い、二泊三日の講習会が開かれた。

講師の皆様は著名な方々で講義内容も面白く、大変参考になった。なかでもヤマテン代表の猪熊先生・警視庁山岳救助隊OB金先生の講義は人を引き付ける、魅力溢れる内容であった。



特に猪熊先生の丁寧な雲の発生メカニズムから、雨をもたらしサルキのある雲の解説は面白く、秋に起こる日本海側での気象遭難の解説は我々、太平洋側に暮らす人にとつ

ては本当に参考になった。翌日、高尾山系での観天望気に於いて、東京か



ら高尾に向かって流れる薄い雲は、東京湾から登る水蒸気が原因。又丹沢山系に発生する雲は相模湾から登る水蒸気が丹沢に当たり雲となり、山を越し平地に来到と温度上昇によりなくなつて行く。実際の天気具合を見ながらの先生の講義は大いに参考になりました。先生発行の本を買って勉強したいと思います。

金先生のお話は長年の山岳救助隊経験に基づいたもので、独特なボヤキ節で人を惹きつけており、へたな唄家より遙かにおもしろかった。奥多摩のようなハイキングコース

でも毎年発見されない行方不明者が5人程度出ている。この行方不明者のほとんどが、おじさんの単独者、初心者、登山計画書なしである。一方20年の経験でおばさんは1名だけでした。

私は今まで山行の約半分が単独行でした。単独行は、厳に慎みたいと決心させられた。この経験を元に、更に勉強しなお

高校クライミング競技大会

第16回高校クライミング競技大会が、12月に埼玉県加須市で行われる第6回全国高校学校選抜クライミング選手権大会の予選をかねて、11月3日(火)浜松スクエアクラ イミングセンターにて、5の校34人(男子22、女子12)の生徒が参加して行われた。女子の予選は、6番壁からメイン壁の右側を登るルートで3名が完登し、5名が決勝進出(グレードは11b)。男子予選は、5番壁の遠いホールドが続くルートだがやや設定が易しく9名が完登し決勝に進出した。

して、この講義内容を伝えて行きたい。

最後に今年の主管は東京都山岳連盟であったが、来年は新潟県山岳協会が担当そうです。私と同じ班で行動していた、かなり変わった風貌の方が新潟の会長さんと挨拶されてビックリしました。(中遠登山クラブ新村幸雄)

(11d)。

女子決勝は、メイン壁右側を正面から登るルート(11d)で、富士宮西の勝本選手が唯一の完登を決め優勝し、それ以外の選手は混戦となり、張りぼて上のホールドをつかんだ浜松日体高の鈴木選手が1手差で2位に入つた。男子は、メイン壁のストレスのかかるルート(12b)で、完登者は出ず、浜松日体の原選手が最高ポイントで優勝した。2位には、浜松日体の河合選手が入り、全国大会への出場を決めた。男子の決勝では、オプ

ザベーションのときに、ロープを通してあったクリップは、当然、競技では使用すべきところ、とばして上に進んだ選手がいたため、ビデオ判定となった。改めて、オプザベーションの大切さと、ビデオ撮影バックアップの重要性を感じさせる大会となった。

大会の結果、男子は2名、女子は4名(日山協推薦2名を含む)が全国大会に駒を進めた。会場の提供をしていただいた浜松スクエアさん、運営に協力して下さった方々に感謝申し上げます。

全国大会出場者は以下の通り。

- ・男子1位 原 賢伸 2位 河合康太(以上浜松日体)
- ・女子1位 勝本真衣(富士宮西) 2位 鈴木彩有希(浜松日体)
- ・「日山協推薦」中村祐香 梨 北脇順子(以上浜松日体)

(諸戸明)

大会の結果は6面に掲載しました。

第39回自然保護委員総会

自然保護と火山災害を学ぶ

9月12日、13日、福島県の国立磐梯青少年交流の家で26団体から約110名が参加して開催された。

テーマを「いわはしやま(会津磐梯山)の自然保護と火山防災について学ぶ」とし火山と自然を学び、考える大会とした。

基調講演は磐梯山噴火記念館、佐藤副館長の「磐梯山と火山災害について」であった。

明治21年7月15日大噴火により山の形は大きく変わり裾野一体に沼や湖が形成され、山の北側にあった11の集落が埋没し、477人の死者出す大災害となった。

火山のメカニズム、被害等を詳しく話された。

今総会資料に磐梯町の「磐梯山憲章」には磐梯山は自然、景観、歴史、文化のどれをとっても素晴らしい「宝の山」で豊富な水資源や温泉などの恵みをもたらした貴重な財産です。

自然保護と火山防災に努め、この宝の山を後世まで伝えたい。

静岡県の活動報告

・活動の母体は日山協自然保護指導員、環境省自然公園指導員、県自然公園指導員、高山植物保護指導員及びNPO法人高山植物保護ネットワークの活動です。

・南アルプスは、可憐な美しい高山植物や百名山を目指す単独、グループ、中高年、女性が多い。ツアー登山も年々増えている。

鹿の食害を防ぐ防護策を、聖平、茶臼岳、荒川岳、



三伏峠に設け、聖平では、ニッコウキスゲが少しづつ生き返っている。また、ロープ柵や木道を、表土流出には丸太工やヤシ繊維のマット敷きを行っている。

・富士山 ユネスコの世界遺産登録から3年目、入山料の問題。噴火したときの避難対策として広報と登山者の把握に課題がある。

各県の活動報告

次に各県は登山教室や清掃登山などを行っている。主な提案を挙げると。

・高知、徳島 ニホンシカが増殖して困る。南アと違い防護柵は設置していないが、鹿が嫌う樹木の植林を研究している。

・長野 一般登山に2本ストックが定着してきた。登山道の土面に小さな穴が開き、雨などで登山道を荒らす結果となり、ストックの先に硬質ゴムを装着してほしい。

・大阪等 山中の水場を水質検査したが、分析検査に大変な経費が必要となる。そして、安易な公表は登山者や関係者に迷惑のかかることも。

・福島 地震、原発事故

等について大災害時の質問は出なかった。今後は山での放射能の測定を行っていききたい。

13日 噴火記念館見学

写真や展示物は勿論だが、磐梯山周辺の模型を使って泥流を流し、裾野の低い土地への広がり、川への流れを実験して説明。火山活動で一番危険なのは土石流と岩なだれである。

また火山帯と原発立地は地震とともに危険な関係にある。こうした危険な関係をマスコミは報道しない。「それは有力新聞社の幹部は毎月の政権と会合を持ち裏話があるからだ」と言い切った。

気象庁は、「休火山」という言葉は使用していない。

13日朝食時弁当とともに支給されたペットボトルに写真と富士山天然水と標記されていた。

(豊田稔)

山岳レスキュー研修会

平成27年度初級山岳レスキュー研修会が11月7日(土)興津生涯学習交流館にて開催して、加盟団体会員、個人会員及び



一般から32名の参加者がありました。

午前は、各2グループに別れて、静岡市消防局の救急隊員及び山岳警備隊員によるAEDの取扱い方法、簡単なロープの結び方(エイトノット・二本のロープの結び方・ブルージック)負傷者の搬送法(ストック等使用したザックによる搬送・ロープの網等)など研修しました。

午後の部は、弘明堂治療院、佐藤弘明先生によるテーピングテープの使用

用法、膝・足首(捻挫等)、実際にテープを使用しての実技を行いました。山行前の予防に参考になったと思います。

また、静岡県警察本部山岳救助隊の真田氏より救助を必要とする場合(遭難したとき)自分たちだけで大丈夫か・家族、友人へ困った(遭難)状況の相談をしないで119番による救助要請をして欲しい。「コンパス」の活用・ガイドブックを過信しないこと。単独行の場合、登山者が多い時期に計画すると、道迷いなどの事故が少なくなる等話をしてくれました。研修会に参加されました皆様ありがとうございました。また講師の方々お忙しいところ、ありがとうございました。

参加団体

静岡県ワンダーフォーゲル会、清水山岳会、静岡こまくさ会、中遠登山クラブ、動霧山岳会、個人会員、一般

(堀内修)



天狗石山は日帰りのコース設定で、千頭駅に集合

平成27年度の第9回しずおかスポーツフェスティバル登山大会を、西部大井川ブロックの担当で、10月17日、18日の両日に、川根本町長島ダム（接阻湖）周辺の七ッ峰と天狗石山で実施しました。

七ッ峰は一泊コースで、長島地区グランドゴルフ場で幕営し、翌日登山口の梅地から約16 Kmのダム周辺の尾根を歩き、接阻峡湖上駅に下る行程であった。

山・天狗石山を経て接阻峡湖上駅に下る行程で設定した。

実施当日は土、日曜日とも、予報が外れ好天となり、17日の幕営地では県内の山仲間20数名が、星空の下で懇親し大いに盛り上がった。

七ッ峰コースは、長丁場の為、幕営地から登山口の梅地まで車で送迎して、行動時間の短縮を図つ



し、開会式の後車で智者山神社まで移動しここから尾根道を進み、智者

9月30日(水)、静岡岳連の「初心者のための安全登山講習会(座学)」が静岡労働会館で開催され、10名が参加した。

この講習会は、県内の登山の初心者を対象に安全登山の知識を身につけていただくための座学講習会で、連続6回予定している内の一つである。

山小屋泊の装備と技術

座学3は、秋の登山教室「紅葉の瑞牆山・金峰山に登ろう」に伴って開催する事前学習講座と合同で開催した。登山教室が自炊の山小屋泊であることから、「山小屋泊登山に必要な装備と技術」をテーマとした。

○山小屋泊について

山小屋泊り計画は必ず

初心者のための安全登山講習会

た、そのため計画より30分ほど早く下山出来た。

また両コース共稜線では期待の紅葉を楽しむことが出来た、やはり天候が結果の成否を決める最大の要素だった。

今回の募集は、できる限り一般の登山愛好者の参加を期待して、日帰りコースは少し短めのコース設定にした為か、無所属の5名と登山教室の9

名と予想以上の成果となった。

その他、一泊コースは30名募集に対して17名、日帰りコースは40名の募集に対して32名と少なく、事前準備不足の為、広報のスタートが遅れたのが影響した、新聞による広報はかなり効果があつた、また自治体広報誌の活用は3、4ヶ月前からのアプローチが必要と感じた。

また今後、スポーツフェスティバル登山大会を継続する為には、全県で活用できるマニュアル化が必要ではないだろうか。

(坂田昇)



・山小屋に着いたら、最初に宿泊手続きを済ませること。

・山小屋では他の登山者の迷惑にならないよう留意する。

・近年、山の食事は実によくなくなった。サラダ、デザート、フルーツの出る山小屋もある。

・ヘリコプターで荷揚げし、発電機やソーラー等の電源が充実し冷蔵庫が利用できるようになった。(担いで荷揚げする小屋もある)

・宿泊客が多いと食事を、何回かに分けて食べることもある。

予約をする。予約なしでは泊まれないことがある。

・後から使用する人のためゴミなどを残さずきれいに使用する。

・食事後の片づけはセルフが多い。残すと残飯の処理に困るので残さないこと。

○山小屋での自炊

・自炊をするとき、水は貴重であることを念頭に使うこと。

・山小屋の水は買いか遠くまで汲みに行かなくてはならない。この時、サブザックと1リトルのペットボトルがあると良い。

○山小屋での炊飯に使う用具と技術

・コンロはガスコンロが手軽で良い。

・クッカー チタン製、アルミ製がある・・・

・チタン製は、軽量であるが焦げ付きやすい。等解説。

○食糧計画

・インスタント食品、フリーズドライ食品や乾物等の活用「軽量・日持ち・栄養・調理」最近のフリーズドライ食品は良くなっている。

(前川朝夫)



秋の登山教室

小屋泊・自炊で瑞牆山・金峰山



夏山登山教室のワンランクアップバージョンを目指して、秋の登山教室を企画した。なにが、ワンランクアップかというと、それは「山で自炊をすること」である。

目的地を、「錦秋の瑞牆山・金峰山」と決め、登山教室参加申込者は、事前に行う2時間の座学を受講してもらうこととし、9月30日に静岡労働会館で開催した。

10月17日、18日の瑞牆山・金峰山の実技登山は、受講者の中で、親戚にご

不幸が出たり、ご本人が急に寝込むほどの体調不良に陥ったとかで、急にキャンセルが出たため、最終的には受講者5名(女性4、男性1)となり、それを講師3名がサポートする体制で実施した。

瑞牆山登山

17日(土)は、パラパラ雨のすっきりしない天気であった。瑞牆山荘駐車場に、マイカー1台とレンタカー1台の計2台で、10時に集合。駐車場で、持ち寄った食材、共同装備の確認と分配を行った後、準備体操を行い、足、腰、手をしっかり伸ばし、今日の宿泊場所である富士見平小屋に向け、出発した。一時間ほどで、富士見平小屋に到着。ここで、小屋にデポしていくものと、瑞牆山登山に持っていくものと荷物の仕分けをして、出発となった。11時半に、小雨の降る中、元気に小屋を出発。

歩くに従い、徐々に天気は良くなり、13時半、瑞牆山山頂に着くころには雨も上がり、周囲を覆っていた霧もサアと消え、明日登る金峰山の山並みも見渡せるほどになっていた。

山頂で昼食の後は、講師によるミニ講話。今回は、「岩山で滑らないための歩き方」を聴講した。その後、下山の途に就く。登りで怪我する人はいない。怪我するのはほとんどが下山の時だから、一步一步、丁寧に、慎重に下ろう!と皆で意思統一した。途中、数か所の鎖場では、常に足の真ん中に体の重心を置き、バランスをとるよう指導した。岩場で足を滑らせることもなく、15時半、富士見平小屋に到着した。



士見平小屋に到着した。小屋到着後は、持ち寄った炊事用具、食材を使い、炊き込みご飯とキムチ鍋を、講師の指導のもと、ワイワイガヤガヤ楽しく料理した。料理の核心部は、ご飯炊きである。いかに、芯が入らず、焦がさず炊くか。その秘伝を、講師が特別に教えてくれた。それは、熱湯の中にお米を入れ、それで一気に炊き上げる、そして水分がなくなってきたなと思ったら弱火にし、しばらくして匂ってきたくところ、コッヘルをひっくり返し、数分間蒸して出上来がり。結果、芯もなく、焦げもなく炊きあがっていた。お陰で、美味しい炊き込みご飯とキムチ鍋をごちそうになることができた。夕食後は、皆で片付けと朝食の準備(パスタを水に浸す)を済ましてから、各自小屋に引き上げ、眠くなったところで就寝。

金峰山登山

翌日18日は、天気予報通り快晴。朝、4時前から星空を見上げながら、朝食(パスタ)の支度。出来上がったところで、



さつさつと朝食を済ませ、5時、ヘッドライトを照らしながら金峰山目指して出発。途中、鷹見岩分岐辺りで、薄っすらと明るくなり、大日小屋に着くころには、すっかり日が差してきた。

砂払いの頭までは、樹林帯の中の歩行であるが、砂払いの頭からは急に展望も開け、ヤッホーと叫びたくなる。この日は、雪をかぶった富士山が正面にくっきり見え、とても気持ちがいい。雨の翌日ということで、空気が澄んでいるためかなと思う。皆、慎重ながら、快調に歩を進め、9時10分、金峰山山頂上に着く。

頂上では、甲武信岳の山並みを始め、八ヶ岳連峰、御岳山、富士山等々、

帰路の途中、増富の湯につかり、二日間の汗を流し、ここで解散となった。けがもなく、ほぼ予定通りのスケジュールで、秋の登山教室を終えることが出来た。

小屋泊まりで自炊は、初めてという受講者が半分以上おり、彼らにとつてはいい経験になったと思う。ぜひ、今後の登山に活かしてくれればいいなと思う。

(田中保広)

360度、手に取るように見ることができた。しばし休憩の後、講師によるミニ講話を聴く。今回のテーマは「道迷い」。人の話は、まともに信じてはダメ、しっかりと自分で調べることが大事。また、友達とべちゃくちゃしゃべりながら下山するとかどこかに行っちゃうことがあり「下山は要注意」をご自身の失敗を踏まえて話された。